

ENEOS潤滑油事業の 工程管理活動について

新日本石油株式会社
執行役員 潤滑油事業本部 潤滑油総括部長

あらかき やすじ
荒木 康次



平素はENEOSの石油製品をご愛用いただきまして、誠に有難うございます。また、私どもが取り扱っております潤滑油製品につきましては、格別のご愛顧を賜り、誌面上ではございますが厚く御礼申し上げます。

米国サブプライムローンの破綻に端を発します、未曾有の世界同時経済危機の中、需要回復の足音が「モノ」づくりの現場にまで中々届かず、工場担当者におかれましては、誠に不本意な日々をお過ごしになっておられるのではないかと拝察いたします。本号が皆様のお手元に届く頃には、景気は底を打ち、回復基調に転じているものと念じておりますが、「モノ」づくりを担当する我々にとりましては、極めて辛い毎を送らざるを得ない事態となっております。

ご存知のとおり、潤滑油製品は「モノ」が働く現場には必要不可欠で、摩擦による負荷を軽減し、機械や機関の無駄のないスムーズな動きを実現するのが主な役割であります。摩擦が発生するところ、即ち「モノ」が動いているところには必ず必要でありますので、その出荷動向は、日本の産業動向を映し出すバロメータであるともいえます。従いまして、昨年10月以降の潤滑油需要の急減は、日本の産業界の病状の深刻さを雄弁に物語っており、私どもも肌身で感じるのところとなっております。いまだかつて誰も経験したことがないような急変を見せた経済低迷の下、需要回復までに果たしてどれくらいの時間を要するのかわかりません。しかしながら、人間の営みが続く以上、何時までもこのままの状態が続くとも考えられないのではないのでしょうか。やがて来たるべき需要回復期に備え、時代の要請に応えるような、環境配慮型、省エネルギー型の商品開発努力を怠ることなく続け、技術を磨いてお客様の期待に

応えるような「モノ」づくりに取り組みたいというのが、私どもの願いであり、不景気にあっても時間を無駄に費やすことなく、切磋琢磨を続けたいと考えております。

そのような取り組みの中で、今回は私どもが精力的に展開しております「ENEOS潤滑油事業の工程管理活動」についてご紹介させていただきます。私ども潤滑油事業本部では、潤滑油製品の「研究・開発、原材料の調達、製造、販売、物流、品質保証」といった一連のサプライチェーンを、部門内で全て担当しており、これらの諸工程の管理を確実に進め、常に向上を目指すことが重要な課題となっております。これを実現するために、現在、「ENEOS潤滑油工場認定制度」「ENEOSTラック輸送工程管理活動」「潤滑油関連基地の工程管理活動」を国内外の製造場所（仕入先を含む）、輸送委託先および物流基地運営委託先の約100事業所に展開いたしております。

これらの活動は、基本的に「理想とする工程管理と現状の工程管理の差を、実際に現場に赴いて作業レベルの次元で比較検証しながら、改善すべき工程内の作業を浮き彫りにし、より高いレベルの工程管理を目指していこう」とする取り組みです。それぞれ40～65項目の工程管理チェックリストを設定し、例えば「ENEOS潤滑油工場認定制度」では、「実製造前の検討」に始まって「原材料の受け入れ検査・受入れ」「原材料の保管」「製品調合」「製品タンクへの移送」「製品検査」「容器の受入れ検査・受入れ・保管」「充填前の確認・検査」「充填」「在庫管理」「出荷検査」「出荷」までの、全12工程の作業要領（標準）・手順書と実際に行なわれている作業との整合性、作業記録によるトレーサビリティを確認いたします。全項目を確認した結果、全てに合格であれば「ENEOS潤滑油工場認定証」を発行し、有効期間を3年と定めて、次回の更新までの間に、更に高いレベルの工程管理を目指していきます。

また「ENEOSTラック輸送工程管理活動」は、ELC会（ENEOS LUBE LOGISTIC COUNCIL）という潤滑油物流関係各社の自主的な取り組みの中で、トラック作業部会のメンバーが主体者となって、総合的な物流品質の向上を目指す活動です。国内の製造場所から、幹線便と呼んでおります大型車で中継基地まで配送した詰品を、お届け先別に荷揃えし、安全輸送する工程の確認や、最終的にお客様に商品をお届けするドライバーとの直接対話の中で、誤配送の防止や荷痛みの撲滅を徹底し、輸送品質の改善と更なる向上に努める取り組みです。早朝5時頃から始まる出荷作業を現場で確認し、全車両が発発するところまでを見送り、その後基地関係

者との間で約40の輸送工程について意見交換を実施いたします。基準となる輸送工程の確認以外にも、各輸送委託先会社独自のアイデアあふれる取り組みの中から、輸送品質、安全輸送の確保を実感することができます。その中には、好事例として、全国へ水平展開する内容も少なくありません。

潤滑油製品は、自動車・船舶などの輸送用から切削・圧延などの工業用までの用途、液体から半固体状・粒状などの性状、バルク品からドラム缶・ペール缶・少量缶までの荷姿などが多種多様であり、製造から物流までのサプライチェーンの工程は実に複雑であります。その複雑な工程を均質なものにするため、こうした地道な取り組みを継続しながら、景気回復までの間に十分な体力を身につけておきたいと考えております。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、最高水準の潤滑油製品をお届けし、環境社会の実現をお手伝いして参りたいと存じますので、宜しくお願いいたします。

